

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	母性看護学Ⅳ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	黒木 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	36
授業内容	周産期における基礎看護学技術の習得、事例によるウェルネスの看護過程の展開				
到達目標	周産期における基礎看護学技術の習得および事例による看護過程の展開を通して母性看護に必要な能力を養う。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	妊婦健診時の諸計測
2	妊婦体験
3	妊娠中の乳房管理、産褥期の乳房管理
4	安楽な姿勢（演習）、妊産婦体操（演習）
5	呼吸法（演習）、産褥体操（演習）
6	沐浴、おむつ交換、バイタルサイン測定
7	諸計測（演習）①沐浴実技試験（演習）
8	情報収集
9	アセスメント
10	問題点と優先順位
11	看護目標
12	計画立案
13	指導案作成
14	模擬媒体（パンフレット）作成
15	実習記録、ウェルネス的思考方法

テキスト 参考書等	系統看護学講座 母性看護1、2 指導技術および看護過程に関する参考図書 ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 医歯薬出版 妊婦モデル・新生児モデル・ファントム・乳房モデル・メジャー・トラウベ・分娩監視装置 その他基礎看護技術用品等 DVD
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定 演習・グループワークへの取り組み姿勢 実技試験（沐浴） 実技記録（妊婦諸計測演習後記録・新生児沐浴演習後記録・指導技術後演習後記録・看護過程演習後記録）

シラバス (前期・後期)

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	精神看護学Ⅳ			時 間 数	15
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有・無	経験年数	19
授業内容	精神障害のある対象及びその家族に対して、看護過程を展開するために必要な基礎的な技術を習得する。				
到達目標	1. 統合失調症患者の経過別看護を理解する。 2. 慢性統合失調症患者の看護過程が展開できる。 3. 患者-学生関係を構築する技術を身につける。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	統合失調症患者の経過別看護
2	薬物療法、リハビリテーション療法における看護
3	精神看護における看護過程ガイド
4	演習 事例展開「統合失調症患者の情報分析、看護上の問題の抽出」
5	演習 事例展開「統合失調症患者の看護計画立案」
6	看護理論 ペプロウの「看護における人間関係」
7	演習 ロールプレイ「事例：抑うつ状態の患者」
8	患者-学生間でおこりうる問題とその解決
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

テキスト 参考書等	・新体系看護学全書 精神看護学①、精神看護学② メヂカルフレンド社 ・はじめてのヘンダーソンモデルにもとづく精神科看護過程 医歯薬出版 ・オープンセサミシリーズ看護学3 東京アカデミー編
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席 レポート 筆記試験

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	成人看護学実習 B			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	藤木 由希子	取得資格	看護師		
		実務経験	有	・ 無	経験年数 1 5
目的	終末期にあり対象および家族について理解し、全人的なく苦痛の緩和と QOL を考えた日常生活の援助ができる。				
到達目標	・対象・家族が置かれている状態について身体・精神社会的側面から述べることができる。 ・全身的な苦痛の緩和、QOL を考えた日常生活の援助と、家族の支援ができる。 ・体験を通し、人間の尊重を重んじる態度を身につける ・医療福祉部門との連携と看護師の役割について考えることができる。 ・専門職業人を目指すものとして自覚ある行動がとれる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 対象の一日の流れ、病棟の看護活動を知る。 2. 対象・家族がおかれている状態について身体・精神・社会的側面から述べるができる。 3. 全身的な苦痛の緩和、QOL を考えた日常生活の援助と家族の支援ができる。 4. 死を迎える人の心理過程について考えることができる 5. 死が近づいた対象とその家族に対して敬虔な態度で接することができる 6. 病棟看護チームや多職種と情報を共有しながら同じ方向性で看護が実践できる 7. 自己の看護の振り返りができる 8. 自己の看護観・死生観を明確にする	1. オリエンテーション 2. 受け持ち対象の情報収集 3. 情報の分析（アセスメント） 4. カンファレンス（看護の方向性） 5. 対象に必要な援助の見学・実施 ・病棟の計画に基づいて受け持ち対象の日常生活の援助を看護師とともに行う。 ・対象のフィジカルアセスメント ・環境整備 ・食事・清潔・排泄の援助 ・移乗・移動の援助・活動と休息の援助 ・対象に行われている治療・処置の見学 1. 対象・家族を尊重しQOLを考慮した看護計画を立案する 2. カンファレンス（看護計画発表） 3. 苦痛の緩和のケア日常生活援助のケアの実施 1) 症状の緩和のケア 2) 精神的ケア 3) 日常生活援助 環境調整 4. カンファレンス 4. 異常の早期発見 5. 死亡に立ち会った時は、指導者とともに死後の処置を実施 ・臨終・死亡時の看護について勉強会 6. 医師との情報交換や治療方針の確認をする。 7. ケースカンファレンスに参加 - 対象のケアの方向性について確認 8. 対象・家族がどこでどのような最期を迎えたいか情報を共有し、必要であれば、退院調整ナース・ソーシャルワーカー等との連携調整を見学する。 1. 「人間の尊厳」「死生観」についてグループワーク。 2. 実習反省会で、終末期の患者・家族の特徴、看護の特性について学んだことを振り返る ・自己の看護の振り返りと今後の課題を明確にする 3. 「私の死生観」レポート作成
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

シラバス（通年）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	成人看護学実習 C			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有	・ 無	経験年数 10
目的	周手術期にある対象について理解し、安全に手術が受けられ、合併症を起こさず順調に回復できるための援助ができる。 対象が安全に検査・処置を受ける援助ができる				
到達目標	・病棟の構造や特殊性、看護活動を知る ・見学や実施を通して術前・術後に必要な看護を知る ・周手術期に必要な看護技術を学ぶ ・周手術期の患者の回復・社会復帰を促すための他部門・他職種との連携の実際を知る。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	【病棟】 1. 病棟の構造や特殊性、看護活動を知る 2. 見学や実施を通して術前・術後に必要な看護を知る 3. 周手術期に必要な看護技術を学ぶ 4. 周手術期の患者の回復・社会復帰を促すための他部門・他職種との連携の実際を知る 【手術室】 1. 手術室の構造や設備・機能を見学を通して知る 2. 手術中に起こりやすい合併症とその予防、看護について理解する 3. 手術室の看護に必要な看護技術を見学を通して学ぶ 4. 器具・物品の取り扱い、滅菌・消毒の方法を理解する	1. 病院オリエンテーション（看護部長） 2. 術前の検査・処置・看護の見学 ・術前のインフォームドコンセント 見学 ・手術室入室までの看護の見学と実施 3. 手術当日 ・酸素ボンベ残量計算 実施 ・術後の検査・処置・看護の見学 ・術後の患者の看護の見学・実施 ・術後ベッド作成、病室の準備 ・ドレーン、チューブ類の管理 ・水分出納、血糖測定 実施 ・効果的な呼吸法の実施 ・膀胱留置カテーテル抜去 自尿確認 ・創部・ドレーン挿入部の観察と処置の介助 ・下肢の弾性包帯・ストッキング装着 4. 入院時 ・他職種のオリエンテーション見学 ・退院に向けての他職種の介入見学 ・必要な社会資源の把握 1. 設備・構造、部屋の環境整備・感染管理 2. 手術使用物品・器具の準備 滅菌物の取り扱い 看護師と医師等スタッフとの連携 3. 手術室での患者への配慮 間接介助看護師の看護の実際の見学 直接介助看護師の看護の実際の見学 4. 器具の洗浄・消毒・滅菌の実施と管理（中材） 集中治療室での看護

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	老年看護学実習 B			時 間 数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	椎葉 さより 他	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	6
目的	高齢者と家族の支援に関わる保健医療福祉チームメンバーの役割を理解し、健康障害をもっている高齢者の生活を重視した援助ができる。				
到達目標	・ 高齢者施設を利用する対象者の特徴について理解できる。 ・ 高齢者施設を利用する対象者の日常生活の自立に向けた援助の必要性を理解し実施することができる。 ・ 高齢者施設を利用する対象者および家族に必要な社会福祉サービスについて理解できる。 ・ 高齢者施設の役割と機能を理解し・看護職と多職種との連携・協働について述べることができる。 ・ 高齢者の尊厳に配慮し敬意をもった関わり方ができる。 ・ 高齢者との関わりを通して自己の老年観を養うことができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 者施設の概要、構成員、多職種の役割制度等について理解できる。 2. 高齢者施設を利用（入所）されている対象者を受け持ち看護過程を展開する。 3. 高齢者施設における看護職・多職種との連携を理解し看護師の役割について理解できる。 4. 高齢者との関わりを通して自己の老年観を養うことができる。	1) 特別養護老人ホームでは1ユニット受け持ち対象者1名を受けもち、必要な援助を実施する。 2) 介護老人保健施設に入所している対象者を受けもち、看護過程の展開をする。 3) デイサービスを利用している対象者について見学する。 ・ 身体的・社会的・精神的特徴を述べるができる。 ・ 自宅で介護できない家族の特徴を述べることができる。 ・ 在宅に向け家族への支援方法を述べることができる。 4) 対象者の生活歴や信条を反映した援助計画を立案する。 5) 施設における多職種の連携を述べるができる。 6) 施設における看護師の役割を述べるができる。 7) 老年期の人々の生活を支えるための社会資源の活用について述べるができる。
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

シラバス（通年）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	小児看護学実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	森崎 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有	・ 無	経験年数 17
目的	子どもと家族を理解し、子どもの成長発達および健康レベルに応じた看護を実践できる能力を修得する。				
到達目標	<保育園実習> - 健康な小児の個別の成長・発達について、身体的・精神的・社会的特徴を述べることができる。 - 健康な小児の成長・発達に応じた援助が実践できる。 - 保育園における健康教育と事故防止の実践を理解できる。 <病棟実習> - 健康障害のある小児の特徴を理解できる。 - 患児と家族の健康障害に応じた看護について理解できる。 - 保健医療福祉チームの連携と活用する社会資源を理解できる。 - 小児とその家族との関わりを通して、小児看護観を深めることができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	健康な乳幼児の発達段階および日常生活行動について理解する。	<保育園実習> - 保育園の概要を知る - 乳幼児に適した環境について観察する - 各年齢の違うクラスに入り、子ども身体的発育・運動機能・情緒・社会性・言語の発達の特徴を観察する 0歳児～4・5歳児の各クラスに入り、食事・排泄・遊び・更衣等発達段階に応じた生活の援助を行う - 保育士と園児のコミュニケーション場面から、発達段階に応じた接し方を理解する 子どもとの関わりの中で言語的・非言語的コミュニケーションの工夫を行う - 健康な子ども観を意見交換しまとめる - 病後児保育の実践について保育士から説明を受ける <小児病棟実習> - 病棟の概要を知る ・一般病棟との違いとその意味 ・感染予防・事故防止対策 「看護師と母親とのコミュニケーションモデル」を理解する - 看護師と一緒に病室の環境整備を行い、健康状態や環境が子どもに及ぼす影響について理解する - 看護師と一緒に清潔、食事、排泄、更衣、遊びや学習の介助やバイタルサイン測定等を行う ・電子カルテ・医師・看護師・母親・本人から情報収集 - 小児看護の対象を理解し、患児と家族の健康障害に応じた看護の実践を理解する。 - 子どもと看護師の関わりを観察し、子どもとのコミュニケーションをとる。 - 看護師と一緒に、環境や対象の反応をとらえ安全・安楽に小児看護技術や日常生活援助を経験する。 - 成長・発達の視点から受け持ち対象の情報を意図的に収集する。 入院や疾病が及ぼす影響を解釈し、子どもと家族のニーズを見つけ出す。 成長・発達を促すための看護を毎日の記録を活用して展開する。 - 小児外来における看護の役割と継続看護

	の実際について理解する。 6. NICU 入院中の看護、家族への看護について理解する。	・ 基本的生活習慣の獲得状況 ・ 看護師と一緒に病状や発達段階を考慮した日常生活援助の実際を行う ・ 観察した事実やデータをもとに毎日の記録の中で看護の評価 5.小児外来見学 ・ 1 か月健診 ・ NICU フォローアップ外来 6. NICU 見学 ・ NICU の環境 ・ 対象の特徴及び治療・看護の実際
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

シラバス（通年）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	母性看護学実習			時 間 数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	黒木 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ ・ 無	経験年数	36
目的	周産期にあたる母性の特徴と新生児の特徴を理解し、母子や父親、家族に対して必要に応じた適切な看護ができるための基礎的能力を養う。				
到達目標	1. 妊娠・分娩・産褥期の特徴を理解し、妊産褥婦を総合的にとらえることができる。 2. 妊産褥婦の正常経過を理解し、各期の状態に応じた看護ができる。 3. 新生児の特徴を理解し、母体外生活への適応の援助を行うことができる。 4. 健康な母子（親子）関係を理解する。 5. 母性看護における継続看護の関係について理解する。 6. 妊産褥婦および新生児とその家族に対して、立場に応じた誠実な対応をとることができる				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 妊娠・分娩・産褥各期の特徴を理解し、妊産褥婦を総合的に捉えることができる。 2. 妊産褥婦の正常経過を理解し、各期の状態に応じた看護ができる。 3. 新生児の生理的特徴と経日的変化を観察し、必要な看護を行うことができる。	1) 妊娠期の特徴を理解し身体的・精神的・社会的側面から捉える 2) 産婦の特性について分娩期の身体的変化と心理的变化中心に理解を深める。 3) 産褥期の特徴を理解し、身体的・精神的・社会的側面から捉える。 入院している妊婦の看護 1) 妊婦がより健康に妊娠期を経過できる援助を実施する。 産婦の看護（分娩第1期～分娩第4期） 2) 産婦がより安全・安楽で満足な分娩ができる援助を実施する。 褥婦を受け持ち妊娠・分娩経過をふまえた褥婦の看護を行う。 3) 褥婦の健康回復と母親として役割が獲得できる援助ができる。 受け持ちの児を通して、子宮外生活適応状態に応じた看護を行う。 1) 新生児が子宮外生活に適応できるよう援助できる。 2) 健康な母子（親子）関係を理解する。
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

シラバス（通年）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	精神看護学実習			時 間 数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	松永 麻喜	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	19
目的	精神に障害のある対象およびその家族を総合的に理解し、対象が社会生活に適応するために必要な看護を実践できる基礎的能力を養う。				
到達目標	- 精神に障害のある対象の行動・思考・対人関係の特徴を理解することができる。 - 精神障害が日常生活に及ぼす影響を理解し、対象に応じた自立のための看護を実践することができる。 - 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、精神に障害のある対象が社会復帰に向けて必要な社会資源の活用方法がわかる。 - 精神に障害のある対象との関わりや実習をとおして自己理解を深め、専門職業人になるための自覚を持つことができる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 精神に障害のある対象の行動・思考・対人関係の特徴を理解する。 2. 治療が対象の心身に及ぼす影響がわかり個別性のある援助ができる。 3. 精神に障害のある対象とのコミュニケーションや援助をとおして、自己理解を深める。 4. 地域生活支援の実際を知り、看護の役割や社会資源について理解する。 5. 精神保健医療を取り巻く社会的・経済的環境が変化する中で精神看護の役割が複雑かつ多様になっていることを理解できる。	精神科病院に入院している対象や社会復帰をしている対象、その家族を通して、精神に障害のある対象が社会に適応できるための援助活動を学ぶ。 （看護過程展開を通して考える） 1) 精神保健福祉法に則った病棟の特徴・構造上の特徴と概況 2) 治療的環境における人権擁護と安全管理、鍵の取り扱い 3) 受け持ち対象の精神障害の特性 ・薬物療法が身体面に影響する因子 ・症状が日常生活行動に影響する因子 4) 患者－看護師関係の発展プロセスの理解 ・プロセスレコードを用いて自己の傾向の理解 5) 日常生活の向上や QOL を高めるための援助 6) 多職種連携の実際 6) 家族や周囲の人々と交流が持てるための援助 7) 受け持ち対象の逸脱行動に伴う危険防止への援助 8) 家族への援助 9) 社会復帰を阻害する因子と社会資源の現状
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	在宅看護論Ⅲ			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	高山幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有	経験年数	18
授業内容	事例による看護過程の展開、医療機器業者による医療機器の説明、在宅看取りを希望する療養者と家族の不安				
到達目標	1. 療養者と家族の健康状態・生活状況・価値観・思いを尊重して地域での暮らしを継続するための具体的看護計画が立案できる。 2. 療養者・家族の尊厳に配慮し、倫理的問題を多職種と多角的な角度から判断し、QOL 維持・向上するための看護のあり方が理解できる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	事例「老々介護と認知症～COPD」による看護過程の展開① 地域・在宅における情報収集の視点
2	事例による看護過程の展開② 情報の整理と統合（関連図）
3	事例による看護過程の展開③ 個人作成関連図発表 グループ（実習）内で関連図を作成する GW
4	事例による看護過程の展開④ 関連図を用いた生活上の課題抽出と優先順位の決定 GW
5	事例による看護過程の展開⑤ 対象の充足状態を意識した未充足の分析
6	事例による看護過程の展開⑥ 対象の充足状態を意識した目標の設定 計画書の作成
7	事例による看護過程の展開⑦ 個人計画の発表 グループ（実習）内で計画を作成する GW
8	事例による看護過程の展開⑧ 効果的なパンフレットの作成と発表
9	医療機器業者による医療機器の説明① 講義
10	医療機器業者による医療機器の説明② 体験学習
11	在宅看取りを希望する療養者「悪性新生物」と家族の不安① 病期別に必要な看護
12	在宅看取りを希望する療養者と家族の不安② 倫理的問題を解決するための多職種との連携・協働
13	在宅看取りを希望する療養者と家族の不安③ ロールプレイ①：終末期後期の対象者とのコミュニケーション
14	在宅看取りを希望する療養者と家族の不安④ ロールプレイ②：終末期後期を看取る家族とのコミュニケーション
15	筆記試験 地域・在宅看護論実習オリエンテーション

テキスト 参考書等	系統看護学講座 地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ 医学書院
--------------	--------------------------

成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験・課題レポート・出席認定・パンフレット
------------------------------	-------------------------

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	看護管理			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	黒木 順子 他	取得資格	看護師		
		実務経験	☒ 有 ・ 無	経験年数	36
授業内容	看護管理・マネジメント、看護を取り巻く法律制度、組織、多重課題の対処とケア計画 看護管理と安全管理体制、国際看護				
到達目標	・看護の機能と役割を明確にし、福祉・医療の中の看護職の役割を理解する。 ・より良い看護サービス実践のための看護管理の重要性を理解する。 ・看護の国際協力の理解を深める。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	看護管理・マネジメントとは
2	看護管理者に求められるもの 看護師すべてに求められるもの
3	新人看護師に求められるもの
4	看護を取りまく法律制度 組織
5	看護体制とチームワーク 他職種との連携
6	多重課題の対処とケア計画
7	看護管理と安全管理体制
8	看護管理の実際
9	看護管理の評価
10	看護職と生涯学習 キャリアアップ
11	世界について知ることから始めようーMDGs と健康
12	国際協力の仕組み プライマリーヘルスケア
13	感染症とスティグマ 性の多様性
14	紛争と難民 災害と看護 国際移動する看護師
15	健康格差と世界の貧困 国際的活動の多様な道 情報リテラシー

テキスト 参考書等	・看護管理看護研究看護制度：メジカルフレンド社 ・看護の統合と実践①マネジメント・医療安全：メジカルフレンド社 ・系統看護学講座 基礎看護学Ⅰ看護学概論：医学書院 ・知って考えて実践する国際看護第2版：医学書院
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験 レポート提出 出席認定

シラバス（前期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	災害看護			時間数	15
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	黒木 順子	取得資格	看護師		
		実務経験	有	・ 無	経験年数 36
授業内容	災害及び災害看護に関する基本的知識、災害サイクル各期における看護活動、災害発生時の社会の対応やしきみ、災害時に必要な技術（トリアージ）				
到達目標	1. 災害及び災害看護に関する基本的知識を理解する。 2. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を理解する。 3. 災害時に看護が果たすべき役割、災害サイクルにおける看護支援活動を理解する。 4. 災害時における事例をもとに倫理的判断が述べられる。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	災害及び災害看護に関する基礎的知識（歴史・定義・種類・疾病構造・サイクル・関連死・要援護者）
2	災害発生時の社会の対応やしきみ（制度・情報と伝達のしきみ・支援体制・個人の備え・ボランティア）
3	災害看護における倫理・教育・理論（倫理原則・教育《期待される能力援助者の基本姿勢》・災害看護理論）
4	被災者及び援助者の心理（被災者・援助者のストレスと心のケア・心のトリアージ）
5	災害サイクル各期における看護活動（避難所の設置・運営 災害種類別疾患の特徴対象別にみた災害看護の実践）
6	病院における災害看護（災害への備え・初動体制・災害訓練）
7	災害時に必要な技術（治療・輸送）
8	災害時に必要な技術（トリアージ）
9	
10	

テキスト 参考書等	教科書：災害看護（南江堂） 参考図書：災害現場でのトリアージと応急処置（日本看護協会出版会）
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	出席認定、 演習への取り組み姿勢・演習内容、グループワークへの取り組み姿勢・内容 筆記試験

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	統合看護技術			時間数	30
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	1
担当講師	大田 智子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	10
授業内容	事例の情報のアセスメント・計画（クリニカルパス）ケア手順を作成 講義・臨地実習で学んだ知識・技術を統合し、模擬患者の援助を安全に実践				
到達目標	1. 事例の情報のアセスメント・計画（クリニカルパス）ケア手順を作成することができる 2. 事例の看護上の問題と対策を明確にし、発表できる 3. 講義・臨地実習で学んだ知識・技術を統合し、模擬患者の援助を安全に実践できる 4. ワークを通して自己の課題を明確にする。				

授業計画

No	授 業 内 容
1	事例の看護過程の展開に必要な知識のまとめ①（病態生理・症状・検査）
2	事例の看護過程の展開に必要な知識のまとめ②（治療・手術後の経過 看護）
3	事例の看護過程の展開①（アセスメント 関連図）
4	事例の看護過程の展開②看護の方法性（全体カンファレンス）
5	事例の看護過程の展開③看護計画作成（クリティカルパス作成）
6	事例の看護過程の展開④看護計画発表
7	事例の看護に必要な看護技術の抽出
8	事例の看護に必要な看護技術の個別性の検討
9	事例の術後 1 日目に必要な看護技術の手順（目的・必要物品・方法・留意点）作成（個人）
10	事例の術後 1 日目に必要な看護技術の手順作成（グループ）
11	事例の術後 1 日目に必要な看護技術の手順のプレゼンテーション
12	看護技術手順の見直し（追加修正）
13	看護技術（術後 1 日目の観察・離床の援助）の演習①
14	看護技術（術後 1 日目の観察・離床の援助）の演習②
15	看護技術の実技試験（OSCE）

テキスト 参考書等	事例の看護過程に必要な既習の書籍・資料
成績評価及び 単位認定の方法 履修上の留意点	筆記試験（60％）レポート提出とプレゼンテーション（10％） OSCE（実技試験）（30％） 出席認定

シラバス（通年）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	在宅看護論実習			時 間 数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	高山 幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
目的	地域・在宅で療養しながら生活する人と、その家族を1単位と考え、健康問題と生活上の課題を理解し、地域・在宅看護の機能と役割について学ぶ。				
到達目標	地域で療養している対象者とその家族の生活を総合的に理解し、対象者の健康レベルや生活の場に応じた看護について理解できる。社会資源の活用や公的機関における地域・在宅の予防的支援と、継続看護や多職種・多機関との連携・協働の重要性が理解できる。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 訪問看護ステーション実習 1) 訪問看護ステーションの概要を理解できる 2) 対象者の病態や健康レベル・生活上の課題を理解できる 3) 生活になじませた看護計画書を作成できる 4) 立案した計画を実施し、内容を評価し、追加修正ができる 5) 様々な地域・在宅看護の提供場を理解し、多職種・多機関連携と協働が理解できる 6) 地域・在宅看護における継続看護の重要性が理解できる 7) 保健・医療・福祉チームの一員として地域・在宅における看護職の果たす役割と責任を考える	訪問看護ステーションにおける規制、利用者の多い疾患、生活状態など 在宅看護を支える法律や制度 職員の訪問に同行する 対象者・家族・看護師・カルテなどからの情報収集、関連図作成、未充足状態の分析、生活上の課題の統合と優先順位の決定 指導者からの指導を参考に計画書を1つ作成する 計画の実施と評価、計画の追加と修正 認知症共同生活介護（グループホーム）・PTの訪問 訪問入浴介護・サービス担当者会議・医療機関との連携の場など 修了反省会 地域・在宅看護の看護過程から学んだこと 訪問看護師に求められる能力、それを身に着けるために何が必要であるか 自己の課題
	2. 保健センター実習 1) 地域・在宅における保健センターの概要を理解できる 2) 地域・在宅における母子保健事業に参加し、母子支援のための多職種・多機関の連携と協働が理解できる	我が国の人口の動向、地域の人口の動向と特徴、健康日本21にのっとり地域計画、1次予防・2次予防1歳6か月児健診、3歳児健診、育ちのひろば（音楽療法）、カンファレンスへの参加 指導者・学生カンファレンス 本日の学びと地域保健活動や母子支援事業について
	3. 地域包括支援センター実習 1) 地域包括支援センターの役割が理解できる 2) その人らしい生活を支援するために、具体的支援活動を知り、多職種・多機関との連携や協働の重要性が理解できる	総合相談支援事業、高齢者虐待防止、継続的・包括的ケアマネジメント、介護予防居宅サービス計画書作成など 職員の訪問に同行する（オレンジカフェ、健康体操、サロン、居宅への訪問、医療機関での連携、など） 地域ケア会議への参加 学生カンファレンス 本日の学びと地域包括ケアシステムについて
	評価方法 実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

	【集中治療室：ICU】 1. 術後急性期の患者の状態と合併症の観察について理解する 2. 術後合併症出現時や急変時の援助を知る 3. 入室中の患者の回復を促す援助について理解する 【外来】 1. 患者・家族の入院・手術に対する不安や、ボディイメージの変化に対する看護を知る 2. 外来の看護師の役割を見学を通して知る 3. 検査・診察・処置を受ける患者に必要な看護を知る 4. 術後の継続看護の必要性について知る 【ER】 1. 救急で受診した患者に対する検査・診察・治療・看護を理解する 2. 検査・処置等を受ける患者の心身の苦痛の緩和の援助ができる	1. 設備・構造、部屋の環境整備・感染管理、手術室・病棟からの申し送り、入室時の対処、病棟への申し送り ・モニター装置の監視と取り扱い ・チューブ、ドレーン類の管理 ・術後合併症対策 ・感染予防対策 2. 観察と記録、異常の早期発見と急変時の対処 3. 術後（呼吸器）リハビリテーションの見学 ・患者の心身の苦痛の緩和 ・日常生活行動の援助 ・面会の際の方法と配慮 1. 手術を受ける患者の看護 ・術前オリエンテーション ・術前訓練 2. 受診時の問診（初診時）、検査・診療・処置の介助 ・検体の取り扱い ・化学療法を受ける患者の看護の見学 3. 検査・診察・処置を受ける対象の看護 ・採血をする患者の看護 ・生体機能検査を受ける患者の看護 ・画像診断検査を受ける患者の看護 ・術前検査、内視鏡検査を受ける患者の看護 ・膵臓・胆管の検査・処置を受ける対象の援助 4. 退院後の生活に対する看護 ・退院時診察 ・退院指導、生活指導 ・食事指導 内服指導 ・ストーマ外来の見学 1. 救急救命処置の見学 患者の観察・診察の見学 ERでの処置の介助の見学 病棟への入院時申し送り(緊急入院) 2. 消防隊からERへの申し送りの見学 ERで行われる看護技術の見学 緊急の検査を受ける対象の看護
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	

シラバス（後期）

宮崎医療福祉専門学校

授業科目	総合実習			時間数	90
学 科	看護学科	学 年	3	単 位 数	2
担当講師	高山 幸子	取得資格	看護師		
		実務経験	有 ・ 無	経験年数	18
目的	看護チームの一員の体験、夜間実習、複数患者の受け持ちを通して、知識・技術・態度を統合し看護実践力を身につける。				
到達目標	・看護管理の実際を知ることにより保健医療福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める ・就寝善の患者の状況を知ることにより、患者を総合的に理解できる。 ・複数患者の看護を、優先順位と時間管理を考慮して実践できる。 ・既習の知識、技術、態度を統合し、看護実践力を高めることができる。 ・これまでの学習を振り返り、将来看護師としての自己課題を明確にする。				

授業計画

時間	授 業 内 容	
90	1. 病棟管理・看護管理の実際について理解できる 2. 看護管理者（師長）の役割と業務について述べるができる 3. コーディネータとしての役割と業務の実際について整理することができる 4. 受け持ち対象の看護の方向性・必要な看護を明確にできる 5. 看護管理の視点で受け持ち対象の看護計画を立案し、援助を実施できる 6. 夜間の看護体制と看護者の役割について述べるができる 7. 夜間の患者の状態を観察し、必要な援助を実践できる 8. 複数患者の援助の優先順位の考え方と時間管理の必要性が理解できる 9. 看護管理や医療安全の視点から質の良い看護について考えることができる 10. 将来看護師としての自己の目標や課題を明確にする	1. 看護部門のオリエンテーション 組織としての機能・看護理念・看護体制、病院看護機能評価 2. 病棟の看護体制のオリエンテーション 病棟の看護体制・勤務体制・診療科の特性、入院患者の特性 業務のスケジュール 業務基準 3. 病棟の医療安全・災害対策 感染予防対策 4. 看護師長業務見学 5. リーダー業務見学 6. チームメンバー業務見学 1. 受け持ち対象のアセスメント 2. 受け持ち対象の看護 1. 受け持ち対象の看護計画立案 2. 状況の変化に応じ臨機応変にケア計画の修正・調整 3. 受け持ち対象の援助実施 1. 夜勤の看護師に同行し看護の見学・実施 2. 夜間帯の患者の状況の把握と夜間に必要な援助の実施 1. 多重課題の対処について勉強会 2. 複数患者のケア計画立案 3. 状況に応じたケア計画の追加・修正 ・患者Aの状態・状況の変化における援助実施の良否、優先度の判断 4. チームでの課題解決 複数患者のケア実施 ・適時、適切な人への報告・連絡・調整 ・メンバー間の連絡調整ケア計画の遂行状況の把握 1. 総合実習のまとめ 実習反省会・レポート ・看護者としての倫理てき行動とは ・将来看護師としての自己の目標・課題
評価方法	実習評価表に基づく評価	
備考	実習要項	